
バッチ花組み

曇天

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バッチ花組み

【Nコード】

N5208E

【作者名】

曇天

【あらすじ】

時は不明で時代のものもバラバラな舞台。そんな舞台で活躍するのが『金木犀組み』一花いちばなの獅麗しれい言葉率ことばいる流浪暗殺隊。そのほか浪人ばかりが集まった『花組み』が……。金木犀組み中心の一話完結戦記物語です。

時・不明

時間・多分午前11時ぐらいだと思う

場所・丘っぱいの多いから山？

いる人又は団体・金木犀組み一同

第一輪 バッチ金木犀組み

ガキイイイイン！！

キンキンイン！！

ガキッ！！！！

丘の下で砂を躍らせる風とともに
遠くまで轟く金属がぶつかり合う音。
そして

『ザシュ！！　ブサアアアア・・・』

肉が切れる音と液体が激しく飛び散る音。

や　「旦那。ターゲットとともに人形が朽ちた」

丘の上にいる髪の色が白に近い16歳ほどの腰にポーチを提げた少年が口を開いた。

か　「案外脆いなー。カッカッカッカ」

同じく丘の上にいる手首に黒いベルトのようなものを巻きつけた髪の高い男が喉を鳴らして笑った。

と　「ターゲットは・・・朽ちた・・・。」

髪の高い男の隣で前髪が長くて背に長い槍を2本背負った男が呟いた。

な　「確かにターゲットは朽ちたがよお。

其れと同時に罔が朽ちちゃあ意味がねえだろ」

編み笠を深くかぶった長身で酒瓶を持った男が呆れたような声で言った。

て「まあ。あの囿もそろそろ限界じゃったし。

どちらも変わらんじゃろ」

前髪を上げて横髪はかわいらしい髪留めでとめていて腰に弓矢を提げた男が楽しげに言った。

に「朽ちたはいいけどよお。アレどうすんだよ。」

ば「もって帰って又動かすんですか？」

センター分けの背にライフルを担いだ少年と

少し天然パーマがかかっていて腰に手榴弾をいくつも提げている少女が

日本刀を手にしている丘の一番前に立っている男に聞いた。

そして男は踊る風にかき消されそうな声で小さく

こ「……………役立ちずは……………捨てる……………」

呟いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5208e/>

バッチ花組み

2010年10月21日20時24分発行